

「永遠の手前で生活を見直す」
(ペテロの手紙第一 1章 17節～21節)

牧師：原 雅幸

序) 神のしてくださったことから始める大切さ

- ・3節～12節の神賛美によって、大きすぎるほどの真実の愛が思い起こされ、これに応答する道として「聖なる者」への招きがある。
- ・私たちは、聖なる者となるべく生まれてきたが、聖霊を受けるまでは決して聖なる者になれない。しかし、神の子は聖なる者になれる！

1) 「聖なる者」とはどんな存在か～出所はレビ記 19章～

- ・ペテロが引用するのは、レビ記 19章 2節。ここには神に対する態度と社会関係での規則が乱雑に並んでいるように見える。
- 聖とは、神との関係を縦糸、人間関係を横糸として織り合わされる布のようなものである。隠れた神との親密な関係と生活実践の統合状態。
- ・「神を恐れよ（見えなくても無視せず、尊重せよ）」に囲まれて「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」が中心に位置している。
- ・聖書の言う愛は、単なる真心や優しさとは違い、正義と調和するもの。
- ・宗教臭くなることではない。名前のある個性的な存在。

2) 「聖なる者となり」「聖なる生活を送る」もう一つの理由

- ・「また」は、「聖なる者となれ」との命令の根拠を増やす意図で使われている。招きであると同時に、責任でもある。
- ・17節「過ぐす」=15節「生活」=18節「生き方」(同根のギリシャ語)
- ・すべての人の公平なさばき主がおられ、今は、永遠の手前であることを知っている私たちは、聖なる生活を送ることで、この真理を証しすることができる。
- ・17節の命令の目的は「自分がさばかれないように」ということではない。神と共に歩む者は、日々、主によって正される(さばかれる)から、最後の審判まで放っておかれることはない。最後に受けるさばきは称賛と栄光のさばきである。罪に定めるさばきは十字架によって過ぎ去った。
- ・私たちが聖なる生活を送ることで、周りの人々が先祖伝来のむなし生き方とは違う生き方があることを知る。神は私たちの生き様を通して、人々を永遠の救いに招く。これは恐るべき、厳粛な務めである。
- ・聖なる生活は独力ではなく、恵みによって、仲間と共にさせていただくもの。主イエスが意識から消えてしまう時間、空間がないか点検したい。



結) 人格とメッセージが一体で受け取られやすいこの国で

- ・「あなたに言われたくない」ではなく「あなたの言うことなら」となるように。

名前(_____)

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① あなたは、どんな大人になりたいですか。なりたいものに○、なりたくないものに×をつけてみましょう。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| () 小さな人にも優しい | () よくぞをつく |
| () 正しいことより、楽をする | () 神様と仲良し |
| () 自分を大切に | () 自分のことばかり大事にする |
| () 困っている人を助ける | () 日曜日だけ神様のことを思う |
| () 悪口をよく言う | () 文句が多い |
| () 感謝でいっぱい | () みんなと同じが大事 |
| () 自分が得することをよく考える | () イエスさまのことをよく考える |
| () その他 _____ | |

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

* 聖なる者に、あなたはなれますか。どうしたらなれますか。なりたいですか。

～教会クイズ(教理問答)～

みんなで一週間
考えてみよう!

Q026 「ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け」とはどういうことですか。

A026 ポンテオ・ピラトとは、イエスさまを処刑した _____ の

総督です。イエスさまは、わたしたち人間が経験するあらゆる

_____ を知り尽くし、引き受けて下さいました。

□ヒント□ イザヤ 53:4-12、マタイ 27:11-26、マルコ 15:1-15、ルカ 23:1-25、ヨハネ 18:28-19:16、

第二コリント 5:21、第一ペテロ 2:22-24、ヘブル 4:14-16